

クウェート*

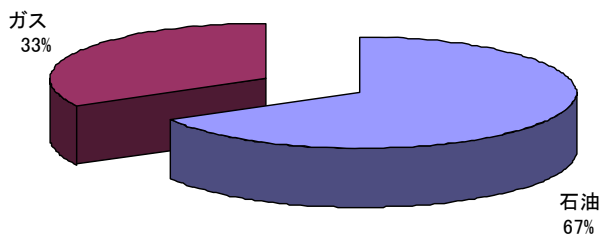
石油・ガス戦略グループ 研究主幹 大住 政孝

1. サマリー

1. エネルギー事情

クウェートは世界第4位の豊富な石油埋蔵量を有し(2006年末時点で1,015億バレル)、世界シェアの8.4%を占める主要なOPEC加盟国である。2005年の一次エネルギー総供給量2,814万トンにおけるエネルギー源別構成比は石油が67%、天然ガスが33%で、その他は0%であった。2006年末時点のクウェートの天然ガス確認可採埋蔵量は62.8兆立方フィートで、世界シェアは1.8%である。埋蔵量の大部分は油田随伴ガスである。2006年の原油生産量は270.4万B/D(コンデンセート含む)で対前年比2.4%増で、世界シェア3.4%。2005年の国内石油製品消費量は620万トン(電力向けは含まず)、輸出が3,233万トンで、対前年比はそれぞれ5.3%増、0.7%減であった。

一次エネルギー総供給構成(2005年)



(出典) IEA 統計 2007年版

2. エネルギー政策のポイント

(1) エネルギー政策担当機関

クウェートのエネルギー担当機関はエネルギー省であるが、最高石油評議会が政策の審議・裁可をする。

(2) 基本政策

クウェートのエネルギー部門における基本政策は以下の4点：

- ・先端技術の導入による原油生産能力の回復・拡大、新規開発の推進
- ・天然ガス輸入による資源確保と国内利用・原油代替の促進
- ・石油収入の効果的活用と「次世代基金」による保全・温存
- ・石油精製部門の能力増強と石油化学部門の育成

*平成19年度に経済産業省資源エネルギー庁より受託して実施した受託研究の一部である。この度、経済産業省の許可を得て公表できることとなった。経済産業省関係者のご理解・ご協力に謝意を表すものである。

3. 最近の動向

最近のエネルギー関係に於けるトピックスとしては、「プロジェクト・クウェート」が首長の交代、議会の解散や反対の混乱、埋蔵量疑惑、高油価によるプロジェクトの見直し等もあり実現が危ぶまれていることを挙げる事ができる。

4. 日本とのエネルギー分野における関係

- (1) 2006 年度の我が国のクウェート原油輸入量は 1,687.4 万 KL で我が国全輸入量の 7.1% であった。
- (2) 1959 年以来、旧中立地帯洋上で石油操業を行って来たわが国のアラビア石油のクウェートとの石油利権協定が 2003 年 1 月に終了期限を迎えた。その後同社による旧中立地帯での活動は 5 年間の技術サービス契約を基本とする 5 つの新契約に移行していたが、この技術サービス契約も 2008 年 1 月 4 日で終了した。

2. 主要エネルギー指標

(2005 年)

(1)	一次エネルギー供給量	28.143 石油換算百万トン	
(2)	1 人当り一次エネルギー供給量	10.42 石油換算トン/人	
(3)	GDP 当り一次エネルギー供給量	0.34 石油換算トン/千ドル	
(4)	エネルギー自給率	520%	
(5)	エネルギー起源CO ₂ 排出量	74.60 二酸化炭素百万トン	
(6)	1 人当りエネルギー起源CO ₂ 排出量	27.63 二酸化炭素トン/人	
(7)	エネルギー源別構成比	石炭	-
		石油	66.5%
		ガス	33.5%
		原子力	-
		水力	-
	再生可能エネルギー等	-	
(8)	エネルギーの輸入依存度 (エネルギー純輸入量 / TPES)	-418.5%	
(9)	石油の輸入依存度 (石油の純輸入量 / 石油の一次供給量)	-629.2%	
(10)	輸入原油の中東依存度	該当数値なし	
(11)	原油輸入先	該当数値なし	

(出所) IEA, Energy Balances of Non-OECD Countries 2004-2005 (2007Edition)

(5) ~ (6) は IEA, CO₂ Emissions from Fuel Combustion 1971-2005, 2007 Edition